

平成24年7月12日

# 根本正顕彰会会報

第70号

発行者 根本正顕彰会

## 目次

- |   |   |                |      |
|---|---|----------------|------|
| 1 | 我が国のエネルギー問題について考える                        | 会長 會澤義雄        | 1 頁  |
| 2 | 平成24年度総会報告<br>(附；公開講演会要旨)                 | 事務局            | 2 頁  |
| 3 | 明治教科書疑獄事件と根本正代議士(前編)<br>—興野義一先生の戦前の教科書蒐集— | 顧問 加藤純二        | 5 頁  |
| 4 | 第1回公開講座報告(資料別添)<br>「根本正と縁のあった人たち・事柄」      | 事務局<br>顧問 柏村一郎 | 8 頁  |
| 4 | トピックス                                     |                |      |
| ① | 禁煙外来へ行こう(「産経新聞」より)                        |                | 9 頁  |
| ② | 『根本正伝』寄贈への礼状<br>(茨城キリスト教学園理事長 金山仁志郎氏)     |                | 10 頁 |
|   | 編集後記                                      |                | 11 頁 |

## 【お知らせ】

### (1) 根本正顕彰フェスティバル(瓜連地区)

日時 平成24年9月29日(土) 13:30~15:30

会場 らぼーる(視聴覚室) (那珂市中里：瓜連支所脇)

DVD視聴 「不屈の政治家根本正」

講演「會澤義雄会長、仲田義一副会長」

### (2) 根本正ゆかりの地を訪ねる旅

期日 10月28日(日)横浜方面(開港記念館ほか、詳細は後日連絡)

### (3) 公民館まつり [11月16日(金)~11月18日(日)]

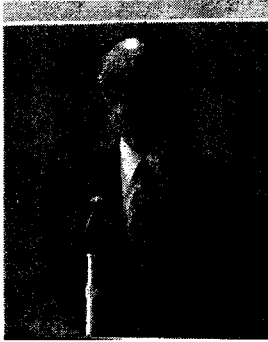
昨年東日本大震災で東京電力福島原子力発電所の1号機から4号機が大きな被害を受けました。その結果、放射能汚染の被害を逃れて今までの住み慣れた土地を離れ、北は北海道から南は沖縄までの全国各地に避難しています。自分の故郷に帰りたくても帰れない、いつ帰れるのか見通しも分からず、除染も進まない、家族もばらばらになって避難している人達がたくさんいます。臨時の避難者用住宅に入ってる人達もおります。今後どのような生活設計を立てたらいいのか苦悩している人達がたくさんおります。

このような状況の中で関西電力大飯原子力発電所3号機（福井県おおい町）が7月1日再起動しました。原子力発電所の再起動については、国内では賛成・反対に分かれて国論が二分されました。放射能汚染は目に見えず、しかも地元自治体ばかりでなく、広い周辺の地域への影響の大きいことを福島原子力事故は如実に示したからです。大飯原子力発電所では、周辺自治体も声を上げ政府に安全性の確認や暫定的運転を迫りました。

我が国では今までは原子力に約3分の1を頼っていました。今後、我が国のエネルギーはどのような構成を目指すのか。原子力発電は廃止した方がよいのか。短期的には、経済活動・医療・生活などに影響が大きいので、エネルギー供給を急に停止させるのは難しいので、原子力安全規制庁（まだ未成立）が安全を認めたものだけを起動させ、中長期的には縮小・廃止の方向へ進めるのがよいのか。また、使用済み核燃料の再処理の問題もあります。原子力発電に代わるものとしてどのようなものがあるのだろうか。クリーンエネルギーとして注目されているのは自然エネルギーであります。自然エネルギーには風力発電・太陽光発電・バイオ発電・潮汐発電・揚水式発電・小規模水力発電などがあります。7月1日から「自然エネルギーの固定価格買い取り制度」が始まり電力会社に買い取りが義務付けされます。しかし、風力発電が国内の発電量に占める割合は0.4パーセントで、政府の試算では2030年に原子力発電を0パーセントにするには、自然エネルギーを35パーセントの割合に高め、風力は12パーセントが必要であると云います（「朝日新聞」）。今より30倍に増やす必要があります。しかし、風力発電の送電網が整っていないので買い取りが難しいという問題や供給の不安定性も指摘されています。太陽光発電も風力発電と並ぶ有力なエネルギーです。何処まで増やせるかが今後のエネルギーの帰趨を決めるようになるのではないのでしょうか。自然エネルギーが増やせない火力発電への依存度が高くなります。そうすると原油の輸入が増加し、地球温暖化の問題と購入のための膨大な外貨の支払いがあります。日本経済もある程度経済成長がないと成り立たないのではないのか。経済界からも経済成長をやめるとか、電気を使用しない経済成長はあるのかとの疑問や財政健全化・持続可能な社会保障制度を守るためには短期的には必要であるとの主張がなされています。とても難しい問題ですが、この機会に自分の生活を見直すと共にエネルギー問題を誰もが真剣に考えていかなければならないのではないのでしょうか。

このような難局に直面したとき、「根本正ならばどのような答えを出すのだろうか」とつい考えてしまいます。

## 平成24年度根本正顕彰会総会開催される



平成24年度総会は、5月27日（日）午後、出席者32名委任状45名をもって那珂市中央公民館講座室で行われた。

### 1 會澤義雄会長のあいさつ

未曾有の東日本大震災で大きな被害を受けたが、当方からもボランティアに出掛けた。またこの度の茨城での大竜巻被害には、他県からも多くのボランティアが駆けつけてくれた。このように、絆を共有してお互いに力を合わせて頑張ってもらいたい。平成23年度の事業も、会員の皆さまのご協力により順調に遂行でき、会の目的

を果たすことが出来たと思う。増刷した『根本正伝』も、生誕150年記念事業のために御寄付をいただいた方々への贈呈も済ませた。今年度も、皆様のご意見をいただきながら、すばらしい会となるよう役員一同奮闘してまいりのでご協力を願いたい。

### 2 秋山和衛那珂市教育長のあいさつ

先般、根本正先生の生家を訪ね、根本正先生をしっかりと心に刻むことが出来た。伝記のDVDも学校に配付いただいた。那珂市の偉大な先人を教師自らも学び、その生き方を子供たちもしっかり伝えていかねばならない。先般、那珂一中の生徒たちは、多くの

の人々が福島県を避けるのに対して、会津地方に出掛け幼稚園や小学校の雪かきの手伝いをしてきた。那珂二中の生徒たちも仙台の中学校と交流し、心での援助も行ってきた。那珂市の子供たちは、心豊かに順調に成長していると思う。さらに、よりよい人間として育てけるよう脇から応援してまいりたい。

### 3 先崎光茨城県議会議員のあいさつ

現在は国際化の時代であると云われ、英語や仏語だと語学や海外へ目が向けられている。しかし、自分の国の歴史や郷土を知らないで国際化と云えるのか。まず、大事な人間としての素質・素養を身につけ、伝えるものを確立することが前提である。それには、根本正先生のような先人の遺徳に思いを馳せることも重要である。会員の一人として、今後

も大いに研鑽を積んでまいりたい。

また、出席された会員でもある遠藤実那珂市議会議員も会場で紹介された。

議事（別添の資料参照）は、仲田義一（副会長）議長のもとで進行し、提案通り承認された。なお、会計監査役の寺門厚氏が退任され、後任には川上清前理事が選任された。

### 平成24年度の事業概要

- ① 公開講演会（総会時；加藤純二顧問）
- ② 公開講座（柏村顧問、鈴木理事）
- ③ 公民館まつり「展示発表」
- ④ ゆかりの地を訪ねる旅「横浜方面」
- ⑤ 根本正顕彰フェスティバル 会場＝瓜連ラポール（瓜連中学区）
- ⑥ 『会報』の発行は年3回
- ⑦ 資料の収集、調査研究の推進

※ 理事会は月1回のペースで行われ、各行事の準備や会報の発行、課題の検討などに当たっている。（根本喜代寿様から飲物のご寄贈がありました。深謝）

## 講演会



講 師 根本正顕彰会顧問・那珂ふるさと大使  
加藤 純二氏

演 題 「明治35年末の教科書疑獄事件と教科書国  
定化案に反対した根本正代議士」

加藤顧問は、遠く仙台からお出でいただき、総会・講演会にと精力的にご尽力下さいました。しかも、講演冒頭で藤田東湖の「正気の歌」を紹介されることもあって、当地に到着されるやいなや市内飯田にある藤田家墓所：「藤田幽谷・東湖父子顕彰碑」に参拝されたのでした。講演は、映像を用いて分かりやすく進められた。寺子屋や私塾などの

自由な教育時代から徐々に国家統制教育的な教科書の国定化へと進んだ内容について系統的に明らかにされた。その中では、教育の力および教育の中での教科書の占める位置、教科書は広い視野から編集されることの重要性、教科書出版が営利事業の一つとなった裏面史など、時代を超えて教育問題を考えることができ、参加者には大きな感銘を与えて下さいました。

### 【講演要旨】

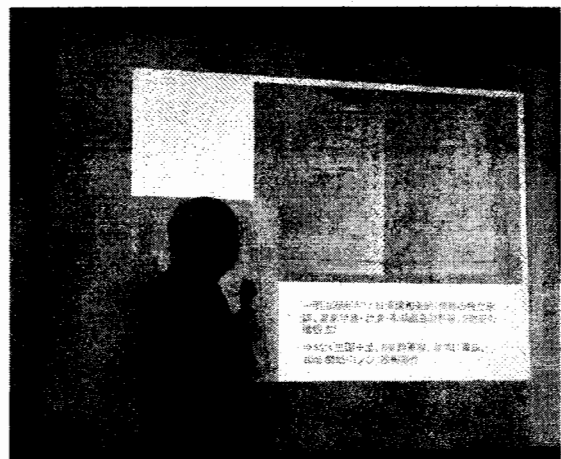
#### 1 教科書問題の背景

藤田幽谷や東湖父子、幽谷の弟子会沢正志斎は、長州藩の吉田松陰や薩摩藩の西郷隆盛など幕末の志士たちに大きな影響を与えた。幽谷は早くから神童といわれた。両親は、当時としては貴重な職業であった古着屋を起こし、教育熱心でもあり、幽谷がその期待に応じて勉学に励んだのであった。

英国捕鯨船が浜に上陸した文政7年(1824)の天津浜事件は、元々の尊皇思想に攘夷思想を加えた「尊皇攘夷」運動に発展するきっかけとなった。藩主斉昭の信頼を得た東湖であったが、弘化元年(1844)斉昭が幕府から隠居・蟄居謹慎の処罰を受けたことで隅田河畔の小梅に幽閉された。この窮状の中で自らの至誠と決意を示すために、日本の歴史上の忠臣・事件を詠まれたのが「正気の歌」である。南宋の忠臣文天祥が、元の侵略を受けた国難の中で不屈の忠誠を詠んだ「正気の歌」に倣ったものである(一部吟詠を用意された)。日本最初の軍神となった広瀬武夫中佐も、短縮改作しているように、志士たちはこれを求めて学び励みとするなど大きな影響を与えた歌である。ところで、自分(加藤顧問)が教科書に興味を持つようになったのは、仙台出身で軍医の興野義一先生の影響である。先生は、出征して軍隊が非人間的・非生産的・非能率的であるかを体験された。考古学者であった先生は、若者に軍隊生活を体験させないためにも、戦前の教育を振り返りたいと戦前の教科書を蒐集されたのであった。

#### 2 教科書の変遷

寺子屋教育や私塾が中心であった江戸時代は、手習い・読み書き・そろばんなどの手本となる教科書(四書・五経、史記・資治通鑑など)は教師の自由であった。明治5年(1872)の学制発布により小学校教育が始まったが、教科書は自由発行・自由採択制であり、小学



読本（翻訳物）や掛図が多く用いられた。「天皇」の記述も、古事記・日本書紀の記述内容をそのまま引用され、自由な表現であった。その後、自由民権運動もあって世情に不穏が広がり、学校打ち壊しなども起こった。それまでの自由教育令により、就学率の低下も見られた。

明治13年（1880）、政府は改正教育令により中央集権制を強化するとともに教科書政策の転換を進めた。元田永孚の進言を得て儒教主義的徳育を進めた。「修身」を重視し教科書取調係を設置した。文部省は問題があるとされた27種の小学校教科書を禁止し、国の安全を妨害し風俗を乱す教科書の不採用を指示した。明治19年（1886）には教科用図書検定条令を定め、明治36年（1903）4月13日の官報に「教科書を、国もしくは国が指定する機関著作のものに限定し、その使用を全国一律に矯正するもの」としたいわゆる国定教科書の使用を決めた（この状態は、それ以降今時大戦終了の昭和20年（1945）まで約40年間続いたのである）。

これにより、歴史教科書は次第に国史中心となり、外国史は排除されるようになった。明治10年（1877）にモースが大森貝塚を発見するなど考古学も導入されたが、日本の歴史学は国家の厳しい監視下に置かれた状況にあった。日清・日露の戦争もあって、軍人が編集に介入し、戦時色が強まった。

### 3 根本正と教科書問題

「時計とマッチ」の西洋文明に感激し、決断と実行力で渡米して大きな成果を得て帰国し根本正代議士は、明治31年（1898）に衆議院議員に初当選した。米国留学で学んだ平等な教育、健全な成長を期した根本正代議士は、翌年には国民教育授業料全廃建議案・未成年者喫煙禁止法案を提出するなど、教育立国を目指して意欲的・精力的に活動を開始した。ところが、明治35年（1902）末、教科書出版社と執筆者・販売者の間に進んでいた癒着・贈収賄事件が発覚した。神聖であるべき教科書が営利の対象とされていたのである。関係者が検挙され、国民の憤激をもたらしたこの事件は、国定化として統制を強めようとしていた政府にとっては好都合な事件であった。桂太郎総理大臣と児玉源太郎陸軍大臣の間に交わされた書翰には、この間の事情が示されている。

日露戦争が開始された明治37年（1904）3月29日、国民は国難として戦時色に染まり、軍人の勢いも増した中で、根本代議士は「国定教科書に関する質問書」を単独で提出した。

- ① 「小学校読本は広く識者の著作に求め、自由に選択せしめ、倍々進運の開展に注意すべきに、2・3の官吏に編纂せしめてよいものか。」
- ② 従来は出版前、高等・高等女子師範学校に回して適否を図りしが、今回は何の諮問もないとは如何？
- ③ 国語の教科書でもある「小学校読本」が、国語調査会の意見も聴いていないというが如何？

しかし国定化は進められた。根本正は、亡くなる前年の昭和7年（1932）「今時は未曾有の重大事局だ。国民は余程しつかりせねば、近き将来に、我々は恐るべき深淵に陥らねばならぬ。」との警鐘を鳴らしていた。

戦後の教科書検定の実態と併せ考えるべき問題でもある。

### 4 藤田幽谷・東湖と根本正（まとめ）

- ① 〈危機意識〉 共に国際的な視野を持っていた  
（植民地化への警戒・尊皇攘夷；世界戦争での敗北・破滅を予感、教育立国）
- ② 〈現代〉 対米従属・半植民地化の状況 → 独自外交・国民生活重視、主体的国際的情報の確保へ
- ③ 〈将来への期待〉 各国・各民族の相互尊重と交流を（文責：事務局）

明治教科書疑獄事件と根本正代議士（前編）興野義一先生の戦前の教科書蒐集  
根本正顕彰会顧問 加藤純二

平成24年5月27日の本総会で「明治35年の教科書疑獄事件と教科書国定化に反対した根本正代議士」という演題でお話をさせていただいた。この疑獄事件は教科書国定化案を生み、のちの小学校教育に大きな変化を与えた。この疑獄事件の真相、特に背後の政府中枢の意図と策略などについてはいまだ秘密のベールにつつまれていると思う。小生は教科書国定化案にあえて反対した根本代議士が実際のこの疑獄事件をどう見ていたのかに関心があったが、例によって根本正代議士は裏話を残していない。小生は、偶然、ある医師で、自分が受けた戦前の教育について資料を集めて研究していた方と会い、教えを受けることができ、今回の会報ではそれを前編として投稿させていただく。

興野義一先生

20年くらい前のこと、ある医療関係の集まりで年配の先生と名刺交換をした。「本職の方の名刺が今ないので」と渡された名刺の肩書きが「日本考古学協会会員」となっていた。それが興野義一先生で、仙台市の八木山の松が丘で内科医院をしておられ、かたわらというか、熱心さと業績では本業以上の、考古学、特に縄文土器の文様の編年的研究で有名な方であった。15年前、先生が77歳の時、前立腺癌と診断され、治療に専念することになった。かたわら、今まで集めた資料の整理に余生を送ることにしたのだと思う。その資料というのが大変な量で、診療所の後ろにあるご自宅は、玄関の外から客間は勿論、ローカから台所、トイレに至るまで、土器を始めとする蒐集品で一杯だった。近所にプレハブの倉庫を建てて、「興野考古館」と名付け、そこも蒐集品で一杯だった。

小生は先生から葬式の弔辞を用意してくれと頼まれた。弔辞は先生の校正を受けてできあがったが、いつの間にか前立腺癌が治ってしまい、弔辞はパソコンの中に眠ったままとなった。先生はその後、再び研究、特に民俗資料の蒐集に取り組んでいた。ある時、お宅の玄関の壁に数着の軍服が掛かっていたので、小生が「この階級章はどんな軍隊内の地位ですか」と聞くと、先生はいろいろ教えてくれたが、「問題は階級章ではない。この布地をさわってみてくれ。南方で使われた軍服と満州など北方で使われた軍服では布の厚さがこれだけ違うんだ」という。軍服を着たことのある人の着眼点は小生のようなシロウトとは違うのだ。蒐集したあらゆる物が万事そのような先生独自の着眼点があった。先生は最後までお元気で、昨年暮れ、92歳で亡くなられたが、亡くなる一週間前にも息子さんが仙台市の東照宮で月1回開かれる骨董市に連れて行ったという。小生は約束どおり、葬儀で弔辞を読み、それを仙台市医師会報に掲載してもらった。

先生の戦争体験と縄文文化の研究

先生は昭和17年、第二次世界大戦の末期に、東北大学付属医学専門部を卒業され、すぐ南方戦線に応召され、悲惨な結末で知られる「インパール作戦」、次いで対中国「断作戦」に従軍された。そして敗戦・抑留生活を経て帰国された。先生は帰国の際、日記類などの所持品をすべて没収されたにも関わらず、ご自身の記憶をたよりに昭和50年、名著「一軍医の見たビルマ敗退戦」を出版された。数ある戦記の中でも、手書きの地図・絵図が約70点も含まれていること、記録が具体的で正確であること、当時のビルマやタイの原住民への民俗学的観察があることなど、後世に残る貴重な戦記である。

昭和26年、宮城県栗原郡一迫町に診療所を開業された。先生の考古学への関心はこの一迫町における時代にイッキに高まり、当時まだ遺跡発掘が重要視されず、縄文遺跡が道

路や建物の建設のため、ブルドーザーで破壊されつつある中、先生は夢中で遺物の収集と遺跡の調査をされ、研究に没頭された。そして『一迫町史』を始めとして宮城県の考古学業績集に多数の研究報告を残している。先生が収集された土器に描かれた縄文時代の文様の編年的研究は、縄文土器の文様についての教科書的な資料になっている。また先生は研究を江合川、北上川の流域にも広げ、特異な「北海道式」と呼ばれる土器群が古墳時代初期に下北半島から南下して宮城県北部に現れたことを報告し、「弥生時代末期に下北半島に足がかりをつけた北海道系狩猟民が、鉄器と農耕の本場の姿をまのあたりにみるべく、北上川を南下して江合川の線にがっちり固められた前方後円墳群に象徴される先進文化圏に到着し、北海道的生活様式を守りながら、ここで土師器の製作や製鉄などの研修に一時従事し、再び下北半島から北海道に戻った」という可能性を指摘された。

#### 先生の戦前の教科書蒐集

七年後、先生は仙台市八木山の松が丘に診療所を移し、多忙な診療のかたわら、考古学・民俗学の研究を続けられた。小生は今から23年前ころから茨城県選出の帝国議会の衆議院議員・根本正（しょう）のことを調べていた。彼は水戸市の隣町的那珂町（現在は那珂市）の出身で、「大日本史」の編纂をする彰考館の総裁・豊田天功の家僕をしていたことがあり、いわゆる水戸学を学んで成長した人である。彼のその後の経歴は省略するとして、一つ、不思議に思ったことは、彼が後に衆議院議員になってから、明治35年末に起こった教科書疑獄事件の直後、教科書の国定化案が議会に出されたとき、ただ一人これに反対したことであった。

結局、教科書が国定化されると、義務教育の中で、天皇の神格化が進み、次第に国民全体にそれが及んだ。この事件は日本の教育が変質化していく上でのターニングポイントであったはずだ。小生は初対面の興野先生に少しそのことを話したところ、先生が戦前の歴史・修身・地理などの教科書を、明治初期から第二次世界大戦にいたる間のものを蒐集されており、それらを見せるので来るように言われた。

初めて先生のご自宅に伺い、近所の「興野考古館」で先生の戦前の教科書のコレクションを見せていただいた。蒐集の動機は、先生が若い頃に、軍国主義教育の環境に育ち、世界情勢の知識に偏りがあったこと、特に戦地で多くの兵士が死んで白骨化していく様を実際に見て、「なぜ日本人はこのような悲惨な戦争に突き進んだのか」、「なぜ天皇の神格化を信じたのか」という自省に基づいていたという。教科書国定化は多くの日本人に誤った歴史観と国際感覚を与え、悲惨な戦争へ誘導した根本的原因になったと思う。

先生は数冊の教科書をダンボール箱から選んで眺めながら、「明治の初期の教科書はこんなに多彩で自由な選択が許されていたんだよ」と言い、「このコレクションは君が持っていたほうがいい」とすべてを私に譲られた。その後、先生の宝物を私物化してはならないと思っていたところ、村田町菅生（すごう）にいた患者さんで小林やゑこさんというおばあさんが、夫のお父さんが寺子屋で使っていた教科書が自宅の物置に多量にあつて、「自分はもう先が短いので、それを貰ってほしい」と頼まれた。たまたま興野先生の弟子にあたる石黒伸一朗さんという方が、村田町の「歴史みらい館」の学芸員をしていたので、彼にお願いしてすべてをそこに寄贈することができた。

#### 国や民族の間の紛争と教育

人と人がたまに対立するように、国と国、あるいは民族と民族は対立し、時には戦争を起こす。指導者は戦争を遂行するのに戦地で戦う多数の若者を必要とする。その若者は国・民族のために死をいとわないほどの高い戦意を持つことが望ましい。相手の民を軽蔑し、

また、自国・自民族への強い誇りも必要だ。指導者はそのような方向に情報、教育を管理する。

鎖国し、長い間の泰平に甘んじていた江戸幕府と庶民は、来航した黒船の偉容に驚き、幕府は欧米列強の通商要求に応じることはやむを得ないと考えた。しかし「大日本史」の編纂をしていて海外事情にも詳しく水戸藩の学者たちは欧米列強の植民地化の野望を警戒し、尊皇攘夷論を唱えた。これは基本的には正しい対応だったろうし、この思想が一部の武士階級に広まったために日本だけが欧米列強による植民地化を免れたのだと思う。正しい情報、教育、思想は必要だと思う。江戸時代には徳川将軍が絶対的な権力を持ち、天皇家は貧乏と政治的無力に甘んじていた。明治維新を経て、世界の紛争の嵐の中に出た明治政府は、日清戦争を経て、いずれせまる日露戦争や欧米列強に対抗するため、国民を求心的にまとめる存在として天皇の神格化・絶対化を必要とした。教科書疑獄事件の背景にこのような事情があったと思われる。

#### 死地を何度もくぐった興野先生の生き方

興野先生はビルマで少なくとも3回、もうこれで死ぬと思ったことがあったという。その一度は、防空壕の中において、となりの防空壕の戦友に呼ばれて移動したところ、自分ももとい防空壕に砲弾が落ちて炸裂したとき。もう一度は、兵站病院において、一人で約三百人のマラリヤや腸チフスの患者を抱え、死亡診断書を毎夜、遅くまで書いていて、自分も腸チフスにかかり、高熱で意識を失ったとき。三度目は、駅で機銃掃射を受けたときだという。そして病院に多数の傷病兵が後送されてきて、作戦の失敗を感じていたところ、軍司令官は一足先に日本へ帰るといので、その最後の演説を聞き、自分らは飢餓の中、死につつある日本兵を診療し、病死者を焼き、衰弱した兵隊とともに「サルウィン河」を泳いで渡ってビルマを後にした。

作戦のさなか、傷病兵を後送するためのルートを探す偵察に出て、ジャングルの中、猿が声をあげて、群れで移動し、多数の大きな美しい孔雀が舞うビルマの山岳地帯に、別世界のように平和に暮らす原住民とかれらの着物の模様のデザインに感心したという。またライ病患者の病院を守る白人シスターらに逢い、彼女らと語り合うというような体験もされた。

先生は、24,5歳にして、殺し合いや多数の病死者、狡猾な軍上層部も戦地に止まる聖者のような人びとも、地獄も三途の川も、すでに実際に体験されたのだと思う。先生は帰国後、この世の名利に全く無頓着で、うずもれた土器から太古の人々の生活に思いを馳せて研究を続け、周囲の人々や患者さんに常に暖かく、そしてひょうひょうと接せられ、診療を続けられた。先生は全く自己宣伝をしなかった。日本科学者会議や日本ビルマ文化協会、東京民芸協会などにも所属され、診療の他、多彩な活動をされた。先生が蒐集された土器類は生前に宮城県歴史博物館に寄贈され、その中の大型のカメは資料館の一角の特別陳列コーナーにライトアップされ、「興野義一氏寄贈」と明記されて燦然たる姿を示している。私はそれを見たとき、それが先生の姿であるように感じた。

それはさておき、先生から譲られたダンボール箱約10箱の戦前の教科書を見て、明治・大正・昭和初期の教科書の内容を実際に読むことができ、この疑獄事件を調査する基礎ができた。しかし自分ながらこの疑獄事件の核心に踏み込めたとしたのは、「根本正伝」を書いたあと、実は最近のことである。現実には問題意識を持ったまま無為に時間を費やしてしまった。

(2012/7/5)



## 根本正顕彰会第1回公開講座報告



平成24年6月24日(日)、那珂市中央公民館で開催された公開講座、発表者は顧問の柏村一郎氏。テーマは「根本正と縁のあった人たち・事柄」。柏村氏は、講演調にまとめられた豊富な資料(別刷り参照)を元に、病後の体調にも拘わらず精力的に90分の発表を勤められた。

内容は

- (1) 浅野破魔之助さんの話  
(自由民権運動家で根本正の熱心な支援者鈴木春吉。東海村の願船寺に墓所がある)
- (2) 根本正顕彰会発足の事情  
(加藤純二氏著『根本正伝』の功績。柏村氏は自ら英文の根本正略伝を作成した)
- (3) 禁酒同盟の断酒会に出席して(夫婦共に禁酒に邁進している処に意義がある)
- (4) 日本禁酒同盟資料館発行『写真と日記で綴る小塩完次・とよ子の禁酒運動、世界連邦の歩み』(生涯をかけた小塩夫妻の禁酒運動)
- (5) 禁酒同盟の戦前・戦中・戦後(禁酒は理想国家創設、戦意高揚、依存症からの脱却)
- (6) 対抗文化としての禁酒運動(前面禁酒は理想、「禁酒運動」の存在に意義がある)
- (7) 世界連邦運動と活躍した人々  
(世界連邦はよき国連を造ること、大国は自ら拒否権を棄てよ。)
- (8) 根本正の反戦平和、米欧との貿易拡大と平和、中国との融和・侵略の防止の活動を  
確認し、その実績をPRしたい。  
(根本正は幣原外交に理解・支持を示した。欧米・中露とも共存共栄で。根本正の業績に「平和外交」を追加することが必要である。)



### 【意見】

- ① 根本正顕彰会は「禁酒」貫徹ですか?  
(飲酒運転厳罰主義など、飲酒に対する目は厳しくなる傾向にある。「飲まれないように」と、自己規制の強い意思の涵養を勧める姿勢でよいのではないか。)
- ② 資料「政見」(「21ヶ条の要求」など対中国政策を論じた)を是非公開して欲しい。  
(後日、資料として会員には配付したい)

# 禁煙外来へ行こう

「たばこをやめたい」と考えながら吸い続けている人は少なくない。それは、意志が弱いからではなく、ニコチン依存症になっているからだという。そのニコチン依存症は、健康保険が適用され、比較的軽い負担で治療できる。高い成功率の経口薬も開発され、少ない苦痛でやめられるようになった。(橋田寿宏)

## 喫煙率は年々減少

「平成22年国民健康・栄養調査」によると、日本人の喫煙率は19・5%で、年々減少している。男性の減少が顕著で、15年は46・8%だったが、22年には32・2%に減少。女性も15年の11・3%から22年は8・4%に下がった。

厚生労働省は「さまざまなきっかけが影響している」として、減少のはっきりした原因は特定しない。だが、増税などでたばこの値段が上昇したことは見逃せない要因だ。代表的な銘柄のマイルドセブンは、15年7月以前は1箱250円だったが、3度の値上げを経て、現在は410円だ。

# 健保が適用され負担軽く

経済的な要素の前に、喫煙は健康を害するという基本的な理由がある。厚生労働省によると、喫煙は肺がんのリスクが高まるだけでなく、動脈硬化が原因で起こる心臓の病気や脳卒中など、全身の病気にかかりやすくなるという。「健康への意識の高まりも喫煙率減少の要因の一つ」(厚生労働省)

## 少しでも早く

たばこが関係する病気を減らすため、18年から禁煙治療に健康保険が適用されるようになった。保険が適用されると、治療に用いる

ニコチンパッチの負担額(8週間)は1万2829円。保険が適用されない自由診療では4万2730円で、負担はかなり軽くなる。1日の喫煙本数に喫煙の年数を掛けた値が200以上などの条件を満たせば保険が適用される。

禁煙補助薬「チャンピックス」が20年から保険適用になったことも、たばこをやめたいと考えている人には朗報だ。

禁煙外来を行っている池袋大谷クリニック(東京都豊島区)の大谷義夫院長は「チャンピックスのおかげで、禁煙の成功率は高まった」と評価する。製造販売するファイザー(渋谷区)によると、試験における成

## 成人喫煙率、34年度までに12%

政府は、成人喫煙率の数値目標を掲げた新たな「がん対策推進基本計画」を閣議決定した。19.5%(平成22年)の喫煙率を、34年度までに12%に引き下げる。喫煙は、肺だけでなく、喉、食道、ぼうこうなどのがんのリスクを高めるとされる。過去にも喫煙率を半減させるとの記述が試みられたが、たばこ業界に配慮し、実現しなかった。今回の計画では、喫煙者のうち禁煙を希望する約4割の人が全員たばこをやめることを前提に目標値を算出。「禁煙の希望者」という反対しにくい根拠に基づいたのが、目標値設定の決め手となった。

成功率は65・4%と高い効果を示している。

たばこを吸うと、脳内のニコチン受容体にニコチンが結合して快感や満足感を得る。チャンピックスはこ

標準的な治療期間は12週間、この間に5回通院。

診察のとき、息に含まれる一酸化炭素の濃度を測定する。一酸化炭素は、たばこの煙に含まれる代表的な有害物質で、濃度が下がるのを確かめながらカウンセリングを受けることで禁煙は成功しやすくなる。

大谷院長は「少しでも早く禁煙を始めると寿命が延びることが分かっている。高齢者であっても遅くはない。禁煙に取り組んでほしい」と話している。



喫煙所でたばこを吸う人たち。喫煙できる場所は少なくなっている (本文とは関係ありません)

拝復

この度は『不屈の政治家根本正伝』をご惠贈くださり、誠にありがたく感謝でございます。

根本正先生の『教育の充実は国家発展の根幹である。』との信念のもとに、青少年の健全育成や教育の充実に取り組まれてこられました。教育授業料の全廃は今まさに実現をいたしております。先生のご活動を思うとき、『人にしてもらいたいと思うことは何でも、あなたがたも人にしなさい。』という黄金律といわれるマタイによる福音書7章のキリスト者としての具現者であられると思います。本学の学生、生徒たちにこの地元の偉人を機会を捉えて伝えていかねばと強く思っております。

この郷土の誇り、根本正伝を発刊されますのに、多大なご尽力をなされた會澤会長様をはじめ、根本正顕彰会の皆様から敬意を表させていただきます。

先ずは、取り急ぎお礼まで。

敬具

二〇一二年 四月 三日

根本正顕彰会

会長 會澤義雄 様

学校法人 茨城キリスト教学園

理事長

まい ほん

## 【編集後記】

※ 梅雨明けが待ち遠しいところですが、会員の皆さまにはご健勝のこととお喜び申し上げます。それにしても、このところの気象は異常ではないかと驚きです。東日本大震災に続く余震は未だに鎮まらず、関東では未曾有の大竜巻、全国各地での集中豪雨と大きな災害が続いています。何となく気象が荒々しくなっている感じがします。逆に言うと、やはり地球は生きていたのだなどの思いを新たにしています。人間の小賢しい智恵と奢りへの警鐘でしょうか？ 自然への畏敬と日常の謙虚な歩みを取り戻す必要があると思われまます。

※ 総会でも話題になりましたが、『根本正伝』を先の生誕 150 年記念行事にご協力を戴いた方々にお送りすることが出来、顕彰会としても一段落の感じがします。この伝記本も好評で、頒布が続いています。茨城キリスト教学園の金山理事長様からのご丁寧な礼状にも感謝しています。「不屈の政治家根本正」の映像もDVD化して市内の全小中学校に配付してさらなる活用に期待しているところです。少子化が問題となっていますが、それだけにしっかりした若者に育って欲しいところです。

※ 総会時の講演で加藤純二顧問は、自主外交と共に各国・各民族の相互尊重と交流を訴えられました。公開講座では、柏村一郎顧問が根本正代議士の平和外交尊重を指摘されました。今後の外交の在り方を示唆されたもので、大きな教えをいただきました。国際協調で知られる幣原（喜重郎）外交は、世界の各国が真剣にこの命題に取り組み紛争を無くす決意をすることが前提でした。国際連盟も国際連合もその理念の下に出発したはずでしたが、実態はその理想を生かし切れておりません。世界の中では、民族・宗教間の紛争が絶えません。日本においても、南方の尖閣列島・竹島、北方領土の国境問題も難題です。諸国間の公正と信義は今何処です。国際平和という大きな理想と共に、それを貫く国民の気概が求められています。各人の世界観・国家観・歴史観が問われているところです。

※ 現在の日本国の内なる世界は如何でしょうか。政治の混迷は、果たして政党政治を担う力が有るのだろうか懸念されます。品格有る政治家が育ってこなかった、また国民が育ててこなかったことも背景にありそうです。理想とされる大正デモクラシーの時代も、政党政治の腐敗が表面化し、世界のエゴが交錯して挫折しています。私どもが、日々根本正代議士を仰ぐように、我が国・我が国民が、世界各国の人々から尊敬され仰がれる民族・国家となることを目指し精進していきたいものです。

※ 禁煙を勧めましょう！ 最近若い女性 10 人余りの集団と仕事をする機会を持ちました。半数が喫煙者でした。これが現実なのかと大変驚きました。根本正代議士は未成年者の禁煙を目指しましたが、その禁煙が今日では大人にまで広がり、代議士自身も驚き喜んでいるであろうと思っておりましたが。顕彰会としては、ますます「禁煙キャンペーン」を張る必要があります。飲酒も規律ある飲酒を、いや、さらには断酒なのでしょうか？

〈仲田（昭）記〉